

産官学で誘客考える

東大研が主催 加賀で研究会 ネット活用など提言

加賀市と観光について研究する大学、企業が集う産官学連携の「観光情報研究会」が二十日、加賀市片山津地区会館であった。東大空間情報科学センターが主催し、金沢工業大など四大学と企業四社、同市の温泉観光協会の関係者ら約三十人が参加した。(浅井貴司)



観光について意見を交わす柴崎教授ら—加賀市片山津地区会館で

市は、年間の観光客数が一九八六(昭和六十一)年の三百九十七万人をピークに減り続け、昨年は二百四十万人に減っていることを報告。昨年6・5%だった関東からの客を増やすことが課題と話した。

大学側は、観光地の人の流れを把握する調査の手法など、観光戦略を練る際に役立つ研究成果を発表。企業もレンタサイクルの活用などを紹介した。質疑応答で、同セン

「では」と提言した。温泉関係者も「旅館のホームページにもっと観光情報を載せるべきだ」と応えるなど、活発に意見を交わしていた。

北国新聞(朝)
H22.11.22

情報発信「加賀温泉」で

東大と加賀市が研究会

東大・加賀市観光情報研究会「写真」は22日、同市片山津地区会館で開かれ、関係機関の担当者が観光をテーマにした研究内容を発表した。



寺前秀一市長、東大空間情報科学研究センターの柴崎亮介教授があいさつ。柴崎教授は、「『加賀温泉』でウェブ検索してもヒット件数が少ない」と指摘したのに対し、山代、片山津、山中の温泉観光協会

の担当者からは「今後は『加賀温泉』として各温泉の情報発信していくことが必要」との意見が上がった。

2010年11月23日 北国新聞